

敬愛短大附属幼稚園だより 7月号

5月～6月まで、敬愛短期大学の1年生の観察参加実習（各1週間28名×3グループ84名）と2年生の教育実習（3週間3名）他短大（3週間、本園卒園児1名）が実施されました。この2か月間は本園に多くの若い力が集まり、子どもたちも楽しく遊んで、たくさんの思い出ができました。また、敬愛短期大学の実習生とは10月の敬愛フェスタバス遠足で短大を訪問する時に再会することになります。

「かがくのかだん」のキャベツなどの作物から昨年の12月にモンシロチョウの幼虫が例年になくたくさん発生し、その後、蛹になり、春にはたくさんのモンシロチョウが園内や東の園舎わきのムラサキハナダイコンが植えられていたあたりにもたくさん舞っていました。子どもたちもよくその様子を観察していましたし、昆虫採集用の網を持ってよく追いかけていました。中には5匹（頭）も捕まえた子もいて、モンシロチョウも捕まったらたまるとばかり、空高く舞い上がり、それを追いかけて「かがくのかだん」や園庭を元気に走り回る子どもたちがたくさん増えました。そのお蔭で、子どもたちの運動量が増え、体力がつくなど副次的な効果をもたらすことになりました。次年度はもっと大型のアゲハ蝶の仲間を増やし、子どもたちの更なる健康増進に努めたいと思います。

幼虫を見て、「ぎゃーー！」と園内で木霊する歓声は、大人は恐怖の声。子どもたちは歓喜の声です。（笑）

1 小学校に進学した卒園児のお母さんからお聞きしたこと

ある小学校に本年4月に入学された卒園児のお母さんからお聞きしたことです。参観日のネームプレート子どもたちが製作し、それぞれが自由に工夫して着色したようです。その際にお母さんが強く感じたことは、本園の卒園児のものは、どの子どもとも色づかいもよく、しっかり描けていたそうです。そういうところから、本園で育った子どもたちの能力や遊びを中心とした日常の保育から来る育ちを改めて感じ、敬愛幼稚園に入園させて本当に良かったとお話されていました。

私たち敬愛幼稚園の保育者としては至らない点も多く、保育力の向上を目指すためには努力不足なのですが、このようなお話をお聞きし、これまでの努力や方向性に間違いがなかったと改めて確認することができ、更に頑張ろうというエネルギーが増してきました。これからも敬愛幼稚園を末永く応援よろしくお願い致します。

2 先生方も挑戦しています

今年も「ソニー幼児教育支援プログラム」の論文に敬愛幼稚園は挑戦します。今年は「科学する心」を育む敬愛幼稚園としては、『わかる』って楽しいねー小さな失敗を乗り越え、思考を深める“ことばの泉づくり”を通してー（仮題）をテーマとして先生方も挑戦しています。（本年9月9日応募締め切り）

昨年度の論文はホームページに表紙を含めて全文が公開されていますのでご一読いただければ幸いです。この論文を書くには実践がなければ書けませんので、それだけ多くの実践を行っていますが、応募規定にページ数の制限があるので、論文に記載の27事例にとどめていますが、年間ではその何倍もの実践が行われています。今年度の論文も幼稚園の今年の研究テーマである「かんがえる」と連動しており、さらに、短大との共同研究も始まります。このようにそれぞれが関連性を持ちながら、現在は3つの研究が同時進行しています。

3 敬愛幼稚園内の隠れた科学を探そう

科学に教育の特色を持たせた幼稚園として2年前から取り組み始め、幼稚園の各所に様々な科学が散りばめられています。ディズニールンドの隠れミッキーを探すように園内の隠れ科学をお家の方と一緒に探すのも楽しみのひとつです。園長室近くにはモンシロチョウの蛹が多く付着していますし、よく見ると白っぽい色の蛹と濃い茶色みがかかった蛹がありますが、なんで色が違うの？ 天井と柱や壁のどちらに蛹が多いの？ どうして靴箱の上にはいないの？ 「かがくのかだん」からどれだけ遠くまで蛹が付着しているのなど考えだしたらきりがありません。どこに蛹がいるのかを見ておくと小学校3年理科の「こんちゅうのからだのつくり」の学習に役立ちます。

（園長 杉山清志）